

# やってみましょう 13 DipSWの情報を送信してみよう (演習)

先回のやってみましょう 12 で、H8 マイコンから PC に RS-232C 経由で文字を送信することが可能になった。それでは、ここで、e-nuvo BASIC のベース基板上的 DipSW の情報を PC に送るプログラムを作ってみよう。どのように送るのかは自分で決めて、作ること。例えば、現在 DipSW の情報を 1 回だけ送るのではなく、DipSW が切り替わったことがわかるようにすると良いでしょう。

## ■ 実験の概要

この実験では、e-nuvo BASIC のベース基板の上に搭載される CPU 基板の CN4 コネクタ(RS-232C)と PC を付属のケーブルで接続し、マイコンから文字を送信する。

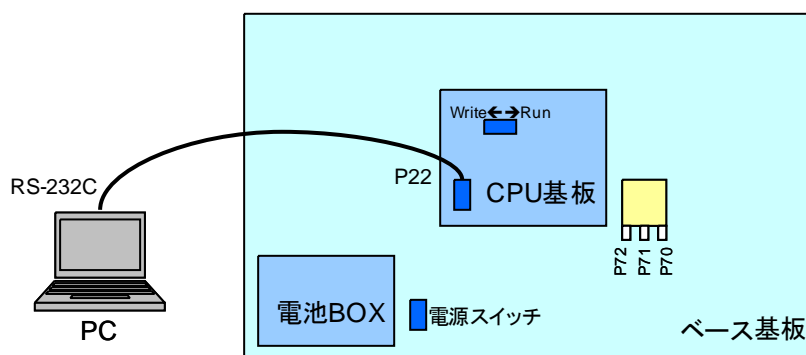


図 13.1 この実験の入出力構成と、配線図

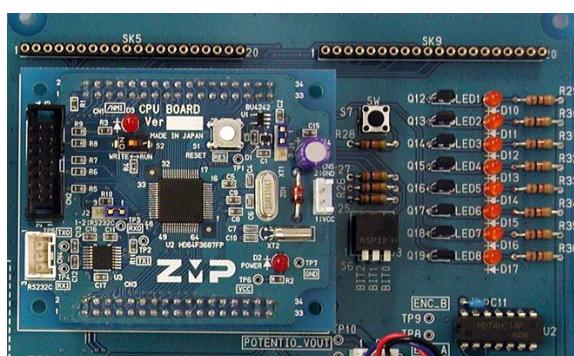


図 13.1 実験風景

実験の流れを、以下に示す。

基本的には、実験の進め方は今までと同様なので、H8 コンパイラ(HEW)や、フラッシュ書込みツール(FDT)といったソフトウェアは、既に、インストールされている。

### <A> 新規プロジェクトの作成

H8 の統合開発環境である HEW を起動し、新規プロジェクトを作成し、プログラミン

グの準備をする。

#### <B> プログラムの作成

C 言語で、DipSW の状態を送信するプログラムを作成する。

#### <C> コンパイル

作成したプログラムをコンパイルし、H8 マイコンが理解できる形式に変換する。

#### <D> プログラムをマイコンに書き込む

PC と、H8 マイコンを接続し、コンパイルしたプログラムをマイコンに書き込む。

#### <E> 実験

PC 側の通信ソフトの設定をする。

マイコンの電源を入れ、通信ソフトの画面に DipSW の状態が表示されることを確認する。

---

#### ★ ヒント

---

- ① DipSW の情報を記憶しておいて、状態が変わったら送信するという送信方法でもよいし、while(1)を使ってもよい。
- ② DipSW の情報を取得する方法を忘れてしまった人は、「やってみましょう 5」を見て参考にすること。